

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム  
文書バージョン: 4.1 Support Package 6 – 2015-06-11

## OpenDocument によるドキュメントの表示



# コンテンツ

<b>1</b>	<b>ドキュメント履歴</b>	<b>4</b>
<b>2</b>	<b>はじめに</b>	<b>5</b>
2.1	このドキュメントについて	5
2.2	このドキュメントの対象者	5
2.3	OpenDocument について	5
2.4	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 の新機能	6
2.5	リンクの移行	7
	デフォルト URL パスの変更	7
	使用停止のパラメータ	7
<b>3</b>	<b>OpenDocument 構文</b>	<b>10</b>
3.1	基本的な URL 構文	10
3.2	URL 構文に関する考慮事項	10
<b>4</b>	<b>セッション管理</b>	<b>13</b>
4.1	シリアル化セッション	13
4.2	ログオントークン	14
4.3	ユーザセッション	15
<b>5</b>	<b>パラメータリファレンス</b>	<b>16</b>
5.1	セッション管理パラメータ	17
	serSes	17
	token	18
5.2	ドキュメントの ID パラメータ	20
	iDocID	20
	sDocName	21
	sIDType	21
	sInstance	22
5.3	入力パラメータ	22
	lsC [NAME] - 複合変数	22
	lsI [NAME] - インデックス	23
	lsM [NAME] - 複数の値変数	23
	lsR [NAME] - 範囲プロンプト	24
	lsS [NAME] - 単一プロンプト	26
	sRefresh	26

---

	sReportName. . . . .	27
5.4	出力パラメータ. . . . .	27
	NAII. . . . .	27
	sOutputFormat. . . . .	28
	sViewer. . . . .	29
	noDocument. . . . .	29
5.5	製品固有のパラメータまたは使用方法. . . . .	30
	Analysis, edition for OLAP. . . . .	30
	Crystal Reports. . . . .	35
	Web Intelligence. . . . .	40
	eView と情報スペース. . . . .	44

# 1 ドキュメント履歴

以下の表は、最も重要なドキュメント変更の概要です。

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1	2013 年 5 月	このドキュメントの初版です。
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 SP05	2014 年 10 月	<ul style="list-style-type: none"><li>「Crystal Reports」の節「IsM[NAME] - 複数の値変数」が更新されました。</li><li>"Web Intelligence" の "IsM[NAME] - 複数の値変数" の節が更新されました。</li><li>"入力パラメータ" の "IsM[NAME] - 複数の値変数" の節が更新されました。</li><li>節「Instance」の表の "説明" が更新されました。</li></ul>
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 SP06	2015 年 5 月	「セッション管理」の節「ユーザセッション」に新しい注が追加されました。

## 2 はじめに

### 2.1 このドキュメントについて

このドキュメントは、OpenDocument 構文を使用するパラメータ付き URL の作成に関する情報を提供します。OpenDocument URL は、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform システムのビジネスインテリジェント (BI)ドキュメントにリンクします。OpenDocument URL パラメータごとに、構文と使用例を含むパラメータリファレンスが用意されています。

BI platform のインストール後に OpenDocument Web アプリケーションをデプロイする方法については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence platform Web アプリケーションデプロイメントガイド*を参照してください。

### 2.2 このドキュメントの対象者

このドキュメントは、OpenDocument 構文を使用して BI ドキュメントの URL を作成するユーザを対象とします。次の作業を行うユーザは、このガイドを参照することをお勧めします。

- 電子メールなどの直接的方法によってドキュメントへのハイパーリンクをエンドユーザに提供する。
- ドキュメントへのハイパーリンクを別のドキュメントに埋め込む。
- カスタムアプリケーションでプログラムによってドキュメントへのハイパーリンクを生成する。

BI platform デプロイメントでのオブジェクトの管理と構成に関する知識があると役立ちます。

### 2.3 OpenDocument について

OpenDocument は、BI platform インストール内にデプロイされる多くの Web アプリケーションの 1 つです。ドキュメントなどの表示可能なオブジェクトタイプの着信 URL 要求を Central Management Server (CMS) で処理し、正しいドキュメントをエンドユーザの適切なビューアに提供します。これにより、ドキュメントへの直接リンクをユーザに送信できるため、ユーザは BI 起動パッドなどでフォルダ階層内を移動する必要がありません。OpenDocument 構文とそのパラメータを使用して、これらのドキュメントにリンクする URL を作成できます。たとえば、次の URL を考えてみます。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?  
iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&sIDType=CUID
```

#### i 注記

**<servername>:<port>** を、OpenDocument がデプロイされる Web サーバの名前とポート番号に置き換えます。

この URL は、Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI という CUID 値を持つ CMS 内のオブジェクトにアクセスします。たとえば、このオブジェクトが Crystal レポートの場合は、ユーザのデフォルトの SAP Crystal Reports Viewer にレポートが表示されます。この例の iDocID は、多くの URL パラメータの 1 つです。これらのパラメータは、CMS 内の特定のドキュメントにアクセスする方法を指定したり、ユーザにドキュメントを表示する方法を決定します。

OpenDocument 構文を使用して、表示可能なさまざまなオブジェクトタイプにリンクできます。次の例があります。

- Crystal レポート
- Web Intelligence ドキュメント
- Analysis ワークスペース
- BI 起動パッドワークスペース
- Dashboards オブジェクト (旧称 Xcelsius)

これらの種類の BI ドキュメントに使用されるデザイナーのいくつかには、ドキュメントに openDocument URL を埋め込む際に役立つ GUI ベースの URL ビルダが用意されています。これらの機能については、各製品のドキュメントを参照してください。

## 2.4 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 の新機能

### eView、Analysis for OLAP および Web Intelligence の拡張サポート

製品のいくつかの OpenDoc パラメータに対する新規サポートまたは拡張サポートをよりの確に示すため、このガイドの新しいセクションが以下のように追加されました。

Analysis, edition for OLAP

- IsC - 複合変数
- IsM - 複数の値変数
- IsR - 範囲変数
- IsM - 単一の値変数

Web Intelligence

- IsM - 複数の値変数
- IsR - 範囲変数
- IsM - 単一の値変数

## 2.5 リンクの移行

### 2.5.1 デフォルト URL パスの変更

SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 では、OpenDocument Web アプリケーションバンドルのデフォルト URL が変更されています。新しい絶対 OpenDocument リンクでは、新しいデフォルト URL を使用する必要があります。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp  
?<parameter1>  
&<parameter2>  
&...  
&<parameterN>
```

既存のリンクを含むレポートを XI 3.x リリースプラットフォームから移行する場合は、Web サーバで次のリダイレクトを設定して、この問題を解決します。

- リダイレクト元: ../OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
- リダイレクト先: ../BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp

#### i 注記

設定したリダイレクトによってすべての URL 要求パラメータが正しく転送されることを確認します。リダイレクトを実装する方法の詳細については、Web サーバのマニュアルを参照してください。

#### i 注記

SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 では、OpenDocument の Java デプロイメントのみがサポートされています。OpenDocument Web バンドルは、BOE.war ファイルに含まれます。

### 2.5.2 使用停止のパラメータ

このセクションでは、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 で使用停止および廃止された OpenDocument パラメータを一覧します。廃止されたパラメータはサポートされません。

#### i 注記

参考のため、SAP BusinessObjects Enterprise XI 3.1 Service Pack で使用停止および廃止されたメンバーも一覧します。

表 5: 使用停止のパラメータ

パラメータ	説明	置換
sIDType=GUID <i>i</i> 注記 SAP BusinessObjects Enterprise XI 3.1 SP3 で使用停止)	表示可能なドキュメントを指定するために GUID を使用することを指定します。 iDocID と共に使用します。	代わりに sIDType=CUID を使用してください。
sIDType=RUID <i>i</i> 注記 SAP BusinessObjects Enterprise XI 3.1 SP3 で使用停止)	表示可能なドキュメントを指定するために RUID を使用することを指定します。 iDocID と共に使用します。	代わりに sIDType=CUID を使用してください。
sKind	ターゲット Desktop Intelligence ドキュメントの SI_KIND プロパティを指定します。	代わりに iDocID を使用してください。
sPath	ターゲットドキュメントのファイルパス。	代わりに iDocID を使用してください。 <i>i</i> 注記 sPath は、このリリースに含まれるローカライズされたフォルダ名の使用をサポートしません。 sPath を使用して CMS 内に保存されている正しいフォルダ名を参照するレガシードキュメントは、使用停止状態の間も引き続き機能します。ただし、iDocID パラメータを使用するリンクに移行することをお勧めします。
sType	ターゲットドキュメントのファイルタイプを指定します。	代わりに iDocID を使用してください。
sViewer=actx	Crystal Reports ActiveX ビューアを指定します。	代わりに、sViewer=html または sViewer=part を使用してください。ActiveX ビューアは、このリリースで使用停止になりました。
sViewer=java	Crystal Reports Java Applet ビューアを指定します。	代わりに、sViewer=html または sViewer=part を使用してください。Java Applet ビューアは、このリリースで使用停止になりました。



表 6: 廃止されたパラメータ

パラメータ	説明	置換
sWindow  <div> <i>i</i> 注記  SAP BusinessObjects Enterprise  XI 3.1 SP3 で廃止 </div>	ターゲットドキュメントを現在のブラウザウィンドウで開くか、新しいウィンドウを起動するかを示します。	HTML アンカーの target 属性などを使用します。例:<a href="..." target="_blank">...</a>

## 3 OpenDocument 構文

### 3.1 基本的な URL 構文

OpenDocument URL の基本的な構文は、次のとおりです。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/<platformSpecific>
?<parameter1>
&<parameter2>
&...
&<parameterN>
```

SAP BusinessObjects Enterprise デプロイメントに従って、次のように <platformSpecific> を置換します。

- Java デプロイメントの場合は、openDocument.jsp を使用します。
- .NET デプロイメントの場合は、opendocument.aspx を使用します。

#### i 注記

変数は山カッコで示しています。これらの変数を適切な値に置き換えてください。たとえば、OpenDocument Web アプリケーションにアクセスするには、<servername> に OpenDocument がホストされている BI platform サーバの名前を使用し、<port> に正しいポート番号を使用する必要があります。

### 3.2 URL 構文に関する考慮事項

#### ドキュメントへのアクセス

表示するドキュメントを指定するには、OpenDocument URL に iDocID パラメータまたは sDocName パラメータを含める必要があります。Central Management Server (CMS) に同じ名前のドキュメントが複数存在する場合や、ドキュメントが移動されたり名前が変更される場合があるため、各ドキュメントが一意になるように iDocID を使用することをお勧めします。

#### パラメータの結合

パラメータはアンパサンド(&)で結合します。アンパサンドの前後にスペースを入れないでください。たとえば、sType=wid&sDocName=Sales2003 です。

パラメータとパラメータの間には必ずアンパサンドが必要です。

## パラメータ値内のスペースと特殊文字

ブラウザによってはスペースを解釈できない場合があるため、URL エンコードが必要な特殊文字やスペースをリンクのパラメータに入れることはできません。特殊文字が誤って解釈されないようにするには、特殊文字をエスケープシーケンスに置換するために、ソースデータベースで URL エンコード文字列を定義します。これにより、データベースは特殊文字を無視し、パラメータ値を正しく解釈できます。RDBMS によっては、ある特殊文字を別の特殊文字に置換する機能があります。

プラス記号(+)のエスケープシーケンスを作成することで、プラス記号をスペースとして解釈するようにデータベースに指示できます。この場合、「Sales Report for 2003」というドキュメントタイトルは、DocName パラメータで `&sDocName=Sales+Report+for+2003&` のように指定します。

この構文により、データベースがタイトル内のスペースを誤って解釈しなくなります。

また、シリアル化セッション (serSes パラメータを使用) およびログオントークン (token パラメータを使用) の値は、OpenDocument URL 文字列に渡す前に、アプリケーションで URL エンコードする必要があります。

## パラメータ値の末尾のスペース

パラメータ値やプロンプト名の末尾のスペースは削除します。このようなスペースをプラス記号(+)で置き換えないでください。そうしないと、プラス記号(+)をプロンプト名の一部として解釈するか、スペースとして解釈するかをビューアが判断できない場合があります。たとえば、次のようなプロンプト名を考えます。

```
Select a City: _
```

この `_` はスペースを表します。この場合、リンクには、次のようなテキストを入力します。

```
lsSSelect+a+City:=Paris
```

プロンプト名内のスペースはプラス記号に置き換え、末尾のスペースは削除しました。

## 大文字と小文字

OpenDocument のすべてのパラメータとパラメータ値は、大文字と小文字が区別されます。

## URL の長さの制限

OpenDocument は、要求されたドキュメントにリダイレクトする際に URL に文字を追加することがあります。ただし、エンコードされた URL が、サポートされているブラウザの最大文字数の制限を超えることはできません。たとえば、Internet Explorer の一部のバージョンでは、URL の長さが 2083 文字に制限されています。したがって、ブラウザの文字制限を確認し、URL が最大文字数の範囲内に収まるようにしてください。

---

## サブレポートへのリンク内のパラメータ値

ターゲット Crystal レポートのサブレポートにパラメータ値を渡すことはできません。

## 新しいウィンドウを開く

OpenDocument HTML リンクで新しいブラウザウィンドウを開くには、HTML アンカーの `target` 属性などを使用します。以下はその例です。

```
<a href="http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/<platformSpecific>?
      iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
      &sIDType=CUID"
  target="_blank">hyperlink text</a>
```

## 4 セッション管理

通常、OpenDocument リンクを使用して BI プラットフォーム内のセキュリティで保護されたドキュメントにアクセスする場合、ユーザは認証情報を要求されます。ユーザ名とパスワードの情報を入力しなくても済むように、OpenDocument には 2 つのパラメータが用意されています。OpenDocument URL にシリアル化セッションまたはログオントークンのいずれかを直接挿入できます。これにより、ドキュメントにアクセス可能な期間を制御できます。OpenDocument URL は、さまざまな言語に設定できます。

### 4.1 シリアル化セッション

OpenDocument では、OpenDocument URL に `serSes` パラメータを挿入することで、シリアル化セッションを使用できます。これにより、ユーザは認証情報を要求されることなくファイルにアクセスできます。シリアル化セッションを作成しても、追加のライセンスは使用されません。元のユーザのセッションがタイムアウトになるか、ログオフすると、シリアル化セッションが期限切れになります。

#### 例

次の例は、BI platform Java SDK を使用して、OpenDocument URL にシリアル化セッションを渡します。

`IEnterpriseSession.getSerializedSession` メソッドの詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence platform Java API* リファレンスを参照してください。

```
String openDocumentSerSes() throws SDKException, UnsupportedEncodingException
{
    IEnterpriseSession sess = CrystalEnterprise.getSessionMgr().login
    ( "username",
      "password",
      "<cms>:<port>",
      "secEnterprise");
    String serSession = sess.getSerializedSession();
    String serSesEncode = URLEncoder.encode(serSession, "UTF-8");
    return
    ( "http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
      ?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
      &sIDType=CUID
      &serSes=" + serSesEncode
    );
}
```

#### 注記

- `<server>:<port>` を Web サーバのサーバ名とポート番号に置き換えます。
- `<cms>:<port>` を Central Management Server (CMS) の名前とポート番号に置き換えます。
- シリアル化セッションは URL エンコードする必要があります。
- シリアル化セッションを使用する OpenDocument URL にはユーザセッションが含まれるため、セキュリティの理由から、これを共有してはなりません。

## 4.2 ログオントークン

OpenDocument では、OpenDocument URL に `token` パラメータを挿入することで、ログオントークンを使用できます。ログオントークンを使用すると、ユーザに認証情報を要求しなくても、BI プラットフォーム内のセキュリティで保護されたファイルへのアクセスを提供できます。同時に、ファイルにアクセス可能な期間を制御することもできます。新しいログオントークンを作成すると、1 つの追加ライセンスが使用されます。



例

### BI platform Java SDK の使用

次の例は、BI platform Java SDK を使用して、OpenDocument URL にログオントークンを渡します。

`ILogonTokenMgr.createLogonToken` メソッドの詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence platform Java API* リファレンスを参照してください。

```
String openDocumentToken() throws SDKException, UnsupportedEncodingException
{
    IEnterpriseSession sess = CrystalEnterprise.getSessionMgr().logon
    ( "username",
      "password",
      "<cms>:</port>",
      "secEnterprise"
    );
    String token = sess.getLogonTokenMgr().createLogonToken
    ( "",
      120,
      100
    );
    String tokenEncode = URLEncoder.encode
    ( token,
      "UTF-8"
    );
    sess.logoff();
    return
    ( "http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
      ?iDocID=Aa6GrrM79cRamaOSMGoadKI
      &sIDType=CUID
      &token=" + tokenEncode);
}
```

### i 注記

- `<server>:<port>` を Web サーバのサーバ名とポート番号に置き換えます。
- `<cms>:<port>` を Central Management Server (CMS) の名前とポート番号に置き換えます。
- `createLogonToken` メソッドを使用すると、トークンを使用できるコンピュータ (任意のユーザにトークンの使用を許可する場合は空に設定)、トークンが有効な分数、およびトークンを使用できるログオン数をパラメータとして指定できます。新しく作成されるログオントークンは別のセッションを使用するため、元のセッションをログオフするために `sess.logoff` を呼び出します。
- ログオントークンを使用する OpenDocument URL にはユーザセッションが含まれるため、セキュリティの理由から、これを共有してはなりません。



例

### BI platform RESTful Web サービス SDK の使用

次の例は、BI platform RESTful Web サービス SDK を使用して取得したトークンを OpenDocument URL に渡します。詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence platform RESTful Web サービス開発者ガイド*を参照してください。

```
http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opensdoc/openDocument.jsp
?iDocID=<documentID>
&sIDType=CUID
&token=<logonToken>
```

#### i 注記

- URL エンコードしたログオントークンは、文字数が多くなることがあります。一部の Web ブラウザーでは、URL の文字数が制限されます。
- <server>:<port> を Web サーバのサーバ名とポート番号に置き換えます。
- <documentID> を、取得するドキュメントの ID に置き換えます。
- <logonToken> を、BI platform RESTful Web サービスを使用して取得した URL エンコードのログオントークン値に置き換えます。

## 4.3 ユーザセッション

BI 起動パッドまたは CMC から使用される OpenDocument は現在のユーザセッションにアクセスするため、ユーザは認証情報を入力する必要がありません。OpenDocument URL を使用してドキュメントを表示すると、次の場合を除き、ユーザは認証情報を要求されます。

- デプロイされた OpenDocument Web アプリケーションに Vintela または Siteminder SSO が設定されている場合。
- OpenDocument URL が `serSes` パラメータまたは `token` パラメータを使用している場合。
- OpenDocument アプリケーションがそのブラウザセッションに対応する既存のユーザセッションを持っている場合。

既存のセッションが `serSes` パラメータまたは `token` パラメータ内のセッションと異なる場合は、既存のセッションが閉じられ、新しいセッションが作成されます。つまり、`serSes` パラメータまたは `token` パラメータを使用して、既存のユーザセッションを上書きできます。OpenDocument アプリケーションは、Web アプリケーションセッション内とクッキー内で既存のユーザセッションを探します。

#### i 注記

- 1 つのブラウザセッションからは、1 つの OpenDocument セッションだけを作成できます。
- ユーザがブラウザを閉じると、ユーザセッションがリリースされます。

新しい `serSes` パラメータまたは `token` パラメータが正しくなく、既存のユーザセッションがある場合、OpenDocument は現在のユーザセッションを使用してドキュメントを開こうとします。開くことができない場合は、ユーザに認証情報を要求します。

## 5 パラメータリファレンス

このセクションは、使用できる OpenDocument パラメータの詳細、その固有の使用方法、および使用例を提供します。

### i 注記

OpenDocument リンクがポイントするドキュメントは、ターゲットドキュメントと呼ばれます。

表 7: セッション管理パラメータ

パラメータ	説明
<a href="#">serSes [17 ページ]</a>	有効なシリアルライズ Enterprise セッションを指定します。
<a href="#">token [18 ページ]</a>	現在の Enterprise セッションの有効なログオントークンを指定します。

表 8: ドキュメントの ID パラメータ

パラメータ	説明
<a href="#">iDocID [20 ページ]</a>	CMS 内の表示可能なドキュメントの一意の識別子を指定します。sIDType と共に使用します。
<a href="#">sDocName [21 ページ]</a>	CMS 内の表示可能なドキュメントの名前を指定します。
<a href="#">sIDType [21 ページ]</a>	表示可能なドキュメントの指定に使用するオブジェクト識別子のタイプを指定します。iDocID と共に使用します。
<a href="#">sInstance [22 ページ]</a>	開くターゲットドキュメントのスケジュールされたインスタンスを指定します。sDocName または iDocID と共に使用します。

表 9: 入力パラメータ

パラメータ	説明
<a href="#">IsC[NAME] - 複合変数 [22 ページ]</a>	SQL の生成時にあいまいさが発生する場合に、Web Intelligence ドキュメントを選択するためのコンテキストプロンプトを指定します。
<a href="#">IsI[NAME] - インデックス [23 ページ]</a>	プロンプトのインデックスまたはキー値を指定します。[NAME] はプロンプトのテキストです。
<a href="#">IsM[NAME] - 複数の値変数 [23 ページ]</a>	プロンプトの複数の値を指定します。[NAME] はプロンプトのテキストです。
<a href="#">IsR[NAME] - 範囲プロンプト [24 ページ]</a>	プロンプトの範囲値を指定します。[NAME] はプロンプトのテキストです。
<a href="#">IsS[NAME] - 単一プロンプト [26 ページ]</a>	1 つのプロンプトの値を指定します。[NAME] はプロンプトのテキストです。



パラメータ	説明
<a href="#">sPartContext [37 ページ]</a>	Crystal レポート部分のデータコンテキストを指定します。sReportPart とともに使用します。
<a href="#">sRefresh [26 ページ]</a>	ターゲットドキュメントを開いたときにデータベースを強制的に最新表示するかどうかを示します。
<a href="#">sReportMode [38 ページ]</a>	このリンクでターゲットの Crystal レポート全体を開くか、指定されたレポートパーツだけを開くかを示します。
<a href="#">sReportName [27 ページ]</a>	ターゲットドキュメントに複数のレポートが含まれる場合に、開くレポートを指定します。
<a href="#">sReportPart [39 ページ]</a>	開くターゲット Crystal レポートのパーツを指定します。

表 10: 出力パラメータ

パラメータ	説明
<a href="#">NAII [27 ページ]</a>	Interactive Analysis Desktop プロンプトのプロンプト選択ページを表示するかどうかを示します。
<a href="#">sOutputFormat [28 ページ]</a>	ターゲットドキュメントを開く形式を指定します。
<a href="#">sViewer [29 ページ]</a>	選択されたレポートビューアを指定します。
<a href="#">noDocument [29 ページ]</a>	Web Intelligence レポートで使用され、値 true は自動的にデザインモードでレポートを開きます。

## 5.1 セッション管理パラメータ

### 5.1.1 serSes

表 11:

構文	説明	値
serSes	有効なシリアル化 Enterprise セッションを指定します。	現在の Enterprise セッションを表すシリアル化文字列。

現在のユーザセッションのシリアル化セッションが含まれます。ユーザが認証情報を要求されることなくファイルにアクセスできるように、この情報を OpenDocument URL に含めることができます。シリアル化セッションを作成しても、追加のライセンスは使用されません。元のユーザのセッションがタイムアウトになるか、ログオフすると、シリアル化セッションが期限切れになります。

## 例

次の例は、BI platform Java SDK を使用して、OpenDocument URL にシリアル化セッションを渡します。

`IEnterpriseSession.getSerializedSession` メソッドの詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence platform Java API* リファレンスを参照してください。.NET や Web サービスなどの他の BI platform SDK を使用しても、同様の方法でシリアル化セッションを取得できます。

```
String openDocumentSerSes() throws SDKException, UnsupportedEncodingException
{
    IEnterpriseSession sess = CrystalEnterprise.getSessionMgr().logon
    ( "username",
      "password",
      "<cms>:<port>",
      "secEnterprise"
    );
    String serSession = sess.getSerializedSession();
    String serSesEncode = URLEncoder.encode
    ( serSession,
      "UTF-8"
    );
    return
    ( "http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
      ?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
      &sIDType=CUID
      &serSes=" + serSesEncode
    );
}
```

## i 注記

- **<server>:<port>** を Web サーバのサーバ名とポート番号に置き換えます。
- **<cms>:<port>** を Central Management Server (CMS) の名前とポート番号に置き換えます。
- シリアル化セッションは URL エンコードする必要があります。
- シリアル化セッションを使用する OpenDocument URL にはユーザセッションが含まれるため、セキュリティの理由から、これを共有してはなりません。

## 5.1.2 token

表 12:

構文	説明	値
token	現在の Enterprise セッションの有効なログオントークンを指定します。	現在の Enterprise セッションのログオントークン。

現在のユーザのログオントークンが含まれます。ユーザが認証情報を要求されることなくファイルにアクセスできるように、この情報を OpenDocument URL に含めることができます。新しいログオントークンを作成すると、1 つの追加ライセンスが使用されます。



例

### BI platform Java SDK の使用

次の例は、BI platform Java SDK を使用して、OpenDocument URL にログオントークンを渡します。

`ILogonTokenMgr.createLogonToken` メソッドの詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence platform Java API* リファレンスを参照してください。.NET や Web サービスなどの他の BI platform SDK を使用しても、同様の方法でログオントークンを作成できます。

```
String openDocumentToken() throws SDKException, UnsupportedEncodingException
{
    IEnterpriseSession sess = CrystalEnterprise.getSessionMgr().login
    ( "username",
      "password",
      "<cms>:<port>",
      "secEnterprise"
    );
    String token = sess.getLogonTokenMgr().createLogonToken
    ( "",
      120,
      100
    );
    String tokenEncode = URLEncoder.encode
    ( token,
      "UTF-8"
    );
    return
    ( "http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
      ?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
      &sIDType=CUID
      &token=" + tokenEncode
    );
}
```

### i 注記

- **<server>:<port>** を Web サーバのサーバ名とポート番号に置き換えます。
- **<cms>:<port>** を Central Management Server (CMS) の名前とポート番号に置き換えます。
- `createLogonToken` メソッドを使用すると、トークンを使用できるコンピュータ (任意のユーザにトークンの使用を許可する場合は空に設定)、トークンが有効な分数、およびトークンを使用できるログオン数をパラメータとして指定できます。
- ログオントークンを使用する OpenDocument URL にはユーザセッションが含まれるため、セキュリティの理由から、これを共有してはなりません。



例

### BI platform RESTful Web サービス SDK の使用

次の例は、BI platform RESTful Web サービス SDK を使用して取得したトークンを OpenDocument URL に渡します。詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence platform RESTful Web サービス開発者ガイド*を参照してください。

```
http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=<documentID>
&sIDType=CUID
&token=<logonToken>
```

### i 注記

- URL エンコードしたログオントークンは、文字数が多くなることがあります。一部の Web ブラウザーでは、URL の文字数が制限されます。
- <server>:<port> を Web サーバのサーバ名とポート番号に置き換えます。
- <documentID> を、取得するドキュメントの ID に置き換えます。
- <logonToken> を、BI platform RESTful Web サービスを使用して取得した URL エンコードのログオントークン値に置き換えます。

## 5.2 ドキュメントの ID パラメータ

### 5.2.1 iDocID

表 13:

構文	説明	値
iDocID	CMS 内の表示可能なドキュメントの一意の識別子を指定します。sIDType と共に使用します。	CMS 内のドキュメントに関連付けられた数値識別子。

表示するドキュメントを指定するには、OpenDocument URL に iDocID パラメータまたは sDocName パラメータを含める必要があります。CMS には同じ名前のドキュメントが複数存在する場合がありますため、各ドキュメントが一意になるように iDocID を使用することをお勧めします。

ドキュメントの識別子の値は、セントラル管理コンソール(CMC)または BI 起動パッドアプリケーション内で確認できます。各ドキュメントのプロパティページにドキュメント ID と CUID があります。BI platform SDK を使用して、プログラムから識別子を取得することもできます。たとえば、Java SDK の `com.crystaldecisions.sdk.occa.infostore.IInfoObject` インタフェースには、OpenDocument URL を渡すことができる `getID` メソッドと `getCUID` メソッドが含まれています。

### i 注記

CUID ではなく InfoObject ID を渡す場合、sIDType パラメータを指定する必要はありません。ただし、CMS 内のドキュメントを別の CMS に移行する場合は、それらの InfoObject ID が変更されます。移行時にも維持される CUID を使用することをお勧めします。

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=2010
```

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&sIDType=CUID
```

## 5.2.2 sDocName

表 14:

構文	説明	値
sDocName	CMS 内の表示可能なドキュメントの名前を指定します。	CMS 内のドキュメントのタイトル。

表示するドキュメントを指定するには、OpenDocument URL に iDocID パラメータまたは sDocName パラメータを含める必要があります。CMS に同じ名前のドキュメントが複数存在する場合や、ドキュメントが移動されたり名前が変更される場合があるため、各ドキュメントが一意になるように iDocID を使用することをお勧めします。

### i 注記

sDocName は、ローカライズされたドキュメント名の使用をサポートしていません。sDocName を使用して CMS 内に保存されている正しいドキュメント名を参照するレガシードキュメントは引き続き機能します。ただし、代わりに iDocID パラメータを使用することをお勧めします。

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp  
?sDocName=Sales+in+2003
```

## 5.2.3 sIDType

表 15:

構文	説明	値
sIDType	表示可能なドキュメントの指定に使用するオブジェクト識別子のタイプを指定します。 iDocID と共に使用します。	<ul style="list-style-type: none"><li>InfoObjectID</li><li>ParentID</li><li>CUID</li></ul>

### i 注記

iDocID の値として CUID ではなく InfoObject ID を渡す場合、sIDType パラメータを指定する必要はありません。ただし、CMS 内のドキュメントを別の CMS に移行する場合は、それらの InfoObject ID が変更されます。移行時にも維持される CUID を使用することをお勧めします。

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp  
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI  
&sIDType=CUID
```

## 5.2.4 sInstance

表 16:

構文	説明	値
sInstance	開くターゲットドキュメントのスケジュールされた (スケジュール時に作成された) インスタンスを指定します。sDocName または iDocID と共に使用します。	<ul style="list-style-type: none"><li>• User (現在のユーザが所有する最新のインスタンス)</li><li>• Last (ドキュメントの最新のインスタンス)</li><li>• Param (パラメータ値が一致するドキュメントの最新のインスタンス。Crystal レポートおよび Web Intelligence ドキュメントのみ。)</li></ul>

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?sDocName=Sales+in+2003
&sInstance=User
```

## 5.3 入力パラメータ

### 5.3.1 lsc[NAME] - 複合変数

lsc パラメータにより、複合変数値の定義時における異なる演算子の使用が指定されます。異なる条件を区切るため、セミicolonが使用されます。

表 17:

構文	説明	値
lsc[NAME]	SQL の生成時にあいまいさが発生する場合のコンテキストプロンプトを指定します。	SQL の生成時のあいまいさを解決するプロンプト値。

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?
iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&lsc=Sales
```

## 5.3.2 lsI [NAME] - インデックス

lsI パラメータにより、インデックスまたはキー値の使用が指定されます。

表 18:

構文	説明	値
lsI [NAME]	インデックスまたはキー値を指定します。このパラメータは、パラメータ lsS [NAME] - 単一プロンプト [26 ページ]、lsM [NAME] - 複数の値変数 [23 ページ]、lsR [NAME] - 範囲プロンプト [24 ページ] のうちいずれかと関連付けられる必要があります。	値は、プロンプトタイプ [prompt name]=[caption] か、Webi レポートの場合は [prompt name]=[key/index] に従って、単純 [S]、複数 [M] または範囲 [R] になります。

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?sDoc=IndexTest
&sType=wid
&lsMStore=[caption]
&lsIStore=[index]
```

### 例

eFashion サンプルユニバースを使用して、インデックス対応に変更された "Store name" オブジェクトの値と、"Store name" オブジェクトのインデックス値を以下のように渡します。

```
http://localhost:8080/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?sDoc=IndexTest
&sType=wid
&lsMStore=e-Fashion New York Magnolia
&lsIStore=2
```

### 例

キー日付などのインデックス値を提供する lsI パラメータ。パラメータは、BEx Query Designer の設定に従い、変数の技術名称を使用して渡されます。URL エンコードが必要であることに注意してください。

下の例では、データ接続 [2]、変数の技術名称 DT\_IH、および日付値 20120715 が特定されています。

```
&lsI[2]DT_IH=20120715
```

## 5.3.3 lsM [NAME] - 複数の値変数

lsM パラメータにより、階層ノードで複数の値を使用できます。

表 19:

構文	説明	値
lsM[NAME]	プロンプトの複数の値を指定します。[NAME] はプロンプトのテキストです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Web Intelligence: セミコロン (;) を使用して、複数のプロンプト値を区切ります。</li> <li>Crystal Reports: カンマ (,) を使用して、複数のプロンプト値を区切ります。</li> <li>no_value (オプションパラメータにのみ使用)</li> </ul>

### i 注記

プロンプトからオプションパラメータを削除するには、openDocument クエリ文字列でこのパラメータを no\_value に設定します。オプション パラメータを openDocument クエリ文字列から削除すると、デフォルトのパラメータ値が適用されます。

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sRefresh=Y
&lsMSelect+Cities=[Paris],[London]
```

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?
iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sRefresh=Y
&lsMparamStringDR=c,d
&lsMparamNumberDR=3,4
&lsMparamDateDR=[Date(2003,6,3)],[Date(2003,6,4)]
&lsMparamDateTimeDR=[DateTime(2003,6,1,3,1,1)],[DateTime(2003,6,1,4,1,1)]
```

## 関連情報

[lsM\[NAME\] - 複数の値変数 \[35 ページ\]](#)

[lsM\[NAME\] - 複数の値変数 \[41 ページ\]](#)

## 5.3.4 lsR[NAME] - 範囲プロンプト

lsR パラメータにより、範囲を指定できます。



表 20:

構文	説明	値
lsR [NAME]	プロンプトの範囲値を指定します。[NAME] はプロンプトのテキストです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つのピリオド(..)で示されるプロンプトの範囲値。</li> <li>no_value(オプションパラメータにのみ使用)</li> </ul>

### i 注記

プロンプトからオプションパラメータを削除するには、openDocument クエリ文字列でこのパラメータを no\_value に設定します。オプション パラメータを openDocument クエリ文字列から削除すると、デフォルトのパラメータ値が適用されます。

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sRefresh=Y
&lsRTime+Period:=[2000..2004)
```

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sRefresh=Y
&lsRparamStringDR=[h..i]
&lsRparamNumberDR=[7..8]
&lsRparamCurrencyDR=[3..4]
&lsRparamDateDR=[Date(2003,6,7)..Date(2003,6,8)]
&lsRparamDateTimeDR=[DateTime(2003,6,1,7,1,1)..DateTime(2003,6,1,8,1,1)]
&lsRparamTimeDR=[Time(1,1,7)..Time(1,1,8)]
&lsRparamUnbound1=(..6)
&lsRparamUnbound2=[6..]
&lsRparamStringR=[a..d]
&lsRparamNumberR=[1..3]
&lsRparamCurrencyR=[1..3]
&lsRparamDateR=[Date(2003,6,1)..Date(2003,6,3)]
&lsRparamDateTimeR=[DateTime(2003,6,1,1,1,1)..DateTime(2003,6,1,3,1,1)]
&lsRparamTimeR=[Time(1,1,1)..Time(3,1,1)]
```

## 5.3.5 lsS[NAME] - 単一プロンプト

表 21:

構文	説明	値
lsS[NAME]	単一プロンプトの値を指定します。[NAME] はプロンプトのテキストです。	<ul style="list-style-type: none"><li>1つのプロンプト値。</li><li>no_value (オプションパラメータにのみ使用)</li></ul>

### i 注記

プロンプトからオプションパラメータを削除するには、OpenDocument URL でこのパラメータを no\_value に設定します。オプションパラメータを OpenDocument URL から削除すると、デフォルトのパラメータ値が適用されます。

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sRefresh=Y
&lsSparamString=h
&lsSparamNumber=1
&lsSparamCurrency=121
&lsSparamDate=Date(2003,6,11)
&lsSparamDateTime=DateTime(2003,6,11,14,38,37)
&lsSparamBoolean=false
&lsSparamTime=Time(12,39,2)&lsSparamStringDR=a
&lsSparamDateDR=Date(2003,6,1)
```

## 5.3.6 sRefresh

表 22:

構文	説明	値
sRefresh	ターゲットドキュメントを開いたときにデータベースを強制的に最新表示するかどうかを示します。	<ul style="list-style-type: none"><li>Y</li><li>N</li></ul>

一部のドキュメントには、ビューアでドキュメントを開いたときにデータベースの最新表示を行う必要があることを示す設定が保存されていることがあります。これらのドキュメント設定は、sRefresh=N より優先します。

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sRefresh=Y
```

## 5.3.7 sReportName

表 23:

構文	説明	値
sReportName	ターゲットドキュメントに複数のレポートが含まれる場合に、開くレポートを指定します。	Web Intelligence ドキュメントのレポート名および A-OLAP Intelligence レポートのレポート名

### i 注記

このパラメータを指定しないと、デフォルトで最初のレポートに設定されます。

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sReportName=First+Report+Tab
```

## 5.4 出力パラメータ

### 5.4.1 NAII

NAII 出力パラメータは、Y または N フラグを渡してプロンプト選択ページを表示できる Web Intelligence 固有のパラメータです。

表 24:

構文	説明	値
NAII	<p>プロンプト選択ページを表示するかどうかを示します。</p> <div><b>i 注記</b> Web Intelligence ドキュメントだけでサポートされます。</div>	<ul style="list-style-type: none"><li>Y (URL で lsS、lsM、または lsR を含めて渡されたプロンプト値が適用され、<b>プロンプト</b>ダイアログボックスに表示されません)</li></ul>

### i 注記

- NAII=Y は、URL 内で指定されていない値に対して **プロンプト** ダイアログボックスを実行します。デフォルト値で作成されたプロンプトは、**プロンプト** ダイアログボックスに表示されたままになります。
- すべてのプロンプト値が URL 内に指定されている場合、NAII=Y が指定されてもプロンプトウィンドウは表示されません。

## 例

この例では、Web Intelligence ドキュメントに Year および Country の 2 つのプロンプトがあることを想定しています。NAII=Y は、**[プロンプト]** ダイアログボックスを表示して、ユーザーが Country プロンプトの値を指定できるようにします。Year プロンプトは、すでに URL で lsS パラメータを使用して FY1999 の値に設定されているので、入力を求められません。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&lsSYear=FY1999
&NAII=Y
&sRefresh=Y
```

## 5.4.2 sOutputFormat

表 25:

構文	説明	値
sOutputFormat	ターゲットドキュメントを開く形式を指定します。	<ul style="list-style-type: none"><li>• H (HTML)</li><li>• P (PDF)</li><li>• E (Microsoft Excel (97-2003) - Crystal レポートのみ)</li><li>• W (リッチテキスト形式 (RTF) - Crystal レポートのみ)</li></ul>

## i 注記

このパラメータを指定しないと、デフォルトで HTML に設定されます。

## 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sOutputFormat=E
```

### 5.4.3 sViewer

表 26:


構文	説明	値
sViewer	選択されたレポートビューアを指定します。	<ul style="list-style-type: none"><li>html</li><li>part (Crystal レポートのみ)</li></ul>

#### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sViewer=html
```

### 5.4.4 noDocument

表 27:

構文	説明	値
noDocument	<p>値 true は、既存のレポートテンプレートを使用して、デザインモードでレポートを開きます。</p> <div> <b>注記</b> Web Intelligence ドキュメントだけでサポートされます。</div>	論理値: True

#### 注記

- noDocument=true は、Web Intelligence レポートを自動的にデザインモードにします。
- 既存のレポートテンプレートが使用されるため、適切なセキュリティを適用することでテンプレートの上書きを防ぐことができます。

#### 例

```
http://<server>:8080/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?
iDocID=6471&noDocument=true
```

## 5.5 製品固有のパラメータまたは使用方法

### 5.5.1 Analysis, edition for OLAP

#### Analysis ドキュメントのベース URL の取得

Analysis では、[送信先 > ドキュメントリンク](#)を使用してドキュメントのベース URL を取得します。リンクが有効であることを確認するため、[リンク](#)フィールドの値を新しい Web ブラウザウィンドウにコピーすることができます。

#### Analysis Open Document URL の構築

URL で SAP BW 変数の値を指定するため、URL の末尾に以下の要素が追加されました。

- 指定する変数のタイプに対する適切な OpenDocument パラメータ
- BEx Query Designer で定義された変数の技術名
- 変数の値

#### 技術名を確認できる場所

SAP BW 変数の技術名は、SAP NetWeaver Business Explorer Query Designer の "プロパティ" ペインで指定され、ビュー > 技術名設定を有効にし、選択したクエリの "変数順序" を表示すると表示されます。技術名はスペースが含まれず、大文字が使用されます (例: Z\_SHPDTE)。表示名は、Shipment Date のようになります。

以下は、URL の末尾に変数 Z\_VAR01 および日付値 20120619 のような技術名を追加した例です。

```
&lsSZ_VAR01==20120619
```

#### 特殊文字の URL エンコード

##### i 注記

カンマやその他の特殊文字が含まれているため、リンクが機能しない可能性がある場合、URL をエンコードします。例

- `&lsC[1]Z_VAR06==1;[ ]5,20;![ ]10,15` が、以下のようにエンコードされます。
- `%26amp%3BlsC%5B1%5DZ_VAR06%3D%3D1%3B%5B%5D5%2C20%3B!%5B%5D10%2C15`

## 複数データ接続設定

複数の接続が定義され、それらを URL に含める必要がある場合、接続の表示順序を表すインデックス番号を使用して、変数名および値を関連付ける接続を識別することができます。

以下の例は、変数とその値のデータ接続インデックス番号および技術名を示す OpenDocument タグです。

```
http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?sIDType=CUID
&iDocID=<ID>
&lsS[1]Z_VAR01=COUNTRY_HIERARCHY_01
&lsS[1]Z_VAR04=EUROPE
&lsS[2]Z_VAR02=20111111
&lsS[2]Z_VAR03=SALES_HIERARCHY_03
&lsM[3]Z_VAR05=1,3,5
&lsC[4]Z_VAR06==1;[]5,20;![]10,15
```

インデックス番号によって、複数の接続が区別されています。これらの接続の表示順序は、Analysis のデータペインで表示できます。この例では、一覧にされた最初の接続が 1、次の接続が 2 のように識別されています。4 つ目の [4] 接続は、&IsC[4]Z\_VAR06 で表示されています。

- 最初の接続 lsS[1] には、Z\_VAR01 変数に適用される単一の COUNTRY\_HIERARCHY\_01 値と、Z\_VAR04 変数に適用される単一の EUROPE 値が含まれます。
- 2 つ目の接続 lsS[2] には、Z\_VAR02 変数に適用される単一日付値 2011, 11, 11 と、Z\_VAR03 変数に適用される単一の SALES\_HIERARCHY\_03 値が含まれます。
- 3 つ目の接続 lsS[3] には、Z\_VAR05 変数に関連付けられた複数の値 1、2、および 3 が含まれます。
- 4 つ目の接続 lsS[4] には、Z\_VAR06 に適用される 1 などの複合変数と、5 から 20 までの範囲が含まれ、10 から 15 までの範囲内の値は除外されます。

## OpenDoc 構文エラー

構文が正しくないと、通常は例にあるような変数の欠落、演算子、およびエンコードされていない特殊文字に関連するエラーが発生します。

OpenDocument 構文エラーの例	説明
OpenDoc syntax error. The value "<値>" for variable<変数名> does not contain sufficient information	このエラーは、複合変数タイプが不完全である場合 (かっこ "]" が ない場合など) に生成されます。
OpenDoc syntax error. The value "<値>" for variable<変数名> does not contain a supported operation	このエラーは、複合変数タイプの演算子がサポートされている演算子 ( " ] " など) と一致しない場合に発生します。値が無効である場合、Analysis, edition for OLAP でエラープロンプトまたはダイアログボックスが表示されます。

## Analysis, edition for OLAP で使用される Open Document タグ

### i 注記

A-OLAP OpenDocument リンクの構築に使用されるタグには、以下が含まれます。

- `lsC[NAME]` - 複合変数 [32 ページ] (複合変数)
- `lsM[NAME]` - 複数の値変数 [33 ページ] (複数の値変数)
- `lsR[NAME]` - 範囲変数 [33 ページ] (範囲変数)
- `lsS[NAME]` - 単一の値変数 [34 ページ] (単一の値変数)

### 5.5.1.1 `lsC[NAME]` - 複合変数

下の例は、複合変数を含めるための `lsC` タグの標準的な使用方法を示しています。変数の技術名が、適切なパラメータとともに必要な書式で使用されます。

#### 例

##### 日付変数の例

下の例は、日付変数 `Z_VAR01` の技術名、等しい演算子 `==`、および年 (YYYY)、月 (MM)、日 (DD) 書式の数値日付値が提供されています。

```
http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?  
?sIDType=CUID  
&iDocID=AeGNibIUS.1NmV45dz3jeP4  
&lsCZ_VAR01==20120619
```

#### 例

##### 除外する範囲およびデータを含む複数值

下の例では、最初の接続 [1] と複合変数名 `Z_VAR06` が特定されています。範囲は 5 から 20 までで、10 から 15 までの範囲は除きます。セミコロンによって値が区切られます。

```
http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?  
?sIDType=CUID  
&iDocID=&<ID>  
&lsC[1]Z_VAR06==1;[ ]5,20;![ ]10,15
```

### i 注記

先行コードスニペットでは、それぞれの変数名および値をより分かりやすく示すため、各 OpenDocument パラメータがそれぞれの行で示されています。完全な URL は、1 つの途切れのない文字列として構築してください。

下の表は、Analysis URL の `lsC` パラメータとともに使用できるさまざまな演算子を示しています。



構文	説明	例
[ ]	範囲内	lsCZ_VAR01=[ ]5,10
! [ ]	範囲外	lsCZ_VAR01=! [ ]5,10
=	等しい	lsCZ_VAR01==5
!=	等しくない	lsCZ_VAR01!=5
>	5 より大きい	lsCZ_VAR01=>5
<	5 未満	lsCZ_VAR01=<5
>=	5 以上	lsCZ_VAR01=>=5
<=	5 以下	lsCZ_VAR01=<=5

### 5.5.1.2 lsM[NAME] - 複数の値変数

#### 単一データ接続の複数值パラメータの設定

ターゲットドキュメントが Analysis レポートである場合、lsM パラメータを使用して、カンマで区切られた複数の値を入力できます。一部のオペレーティングシステムでは URL 文字列にカンマが含まれていると問題が発生するため、URL エンコードが必要です。

渡されたパラメータでは、Analysis ワークスペースのデータソースで設定された一意の技術名が使用されます。

#### 例

##### 営業階層に対する複数の変数の設定

この例は、複数の変数の指定方法を示しています。最初のデータ接続が使用され (&lsM の後の指定は不要)、変数の技術名 VAR\_HN\_S と 1 および 3 の値がカンマで区切られて後に続きます。分かりやすいよう、この例は URL エンコードなしで表示され、各 openDocument コンポーネントがそれぞれの行に表示されています。

```
http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/.opendoc/openDocument.jsp
?sIDType=CUID
&iDocID=<ID>
&lsMVAR_HN_S=1,3
```

### 5.5.1.3 lsR [NAME] - 範囲変数

ターゲットが Analysis レポートである場合、変数範囲と、各データ接続のインデックス番号 (複数ある場合) を指定できます。下の例は、データ接続と変数名、およびそれに続く範囲を示しています。

(分かりやすさのため、openDocument プリアンブルは省略されています):

```
&lsR[2]VAR_20=2000..2009
```

[2] は接続インデックス番号の名前を指し (2 つの接続がある場合、この例の番号は Analysis クライアントの **データ** パネルに表示される 2 つ目の接続を指します)、VAR\_20 は BEx Query Designer に表示されるフィールドの技術名であり (技術名は、使用できないユーザフレンドリな名前 Ship\_date とは異なります)、2000..2009 は開始年と終了年の値である範囲です。

## 5.5.1.4 lsS [NAME] - 単一の値変数

ターゲットが Analysis レポートである場合、lsS パラメータを使用して変数の単一値を設定できます。lsS パラメータは、以下の変数タイプに適用できます。

- 単一値
- 階層
- 階層ノード
- キー日付
- formula
- 通貨

詳細については、[lsS\[NAME\] - 単一プロンプト \[26 ページ\]](#)パラメータリファレンスを参照してください。

### 例

#### 日付パラメータの設定

以下は、日付変数 ZCR\_DT を 2011 年 8 月 3 日 20110803 に設定する例です。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/openDocument.jsp  
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI  
&sIDType=CUID  
&lsSZCR_DT=20110803
```

### 例

#### 通貨パラメータの設定

この例では、通貨変数 Z\_CUR\_MD の値をユーロの技術名である EUR に設定しています。

```
&lsSZ_CUR_MD=EUR
```

### 例

#### 階層および階層ノードの設定

この例では、階層ノード変数 Z\_VAR013 をジャマイカの国のキーを表す値 34 に割り当てています。次の行では、階層変数 Z\_VAR011 が "国階層 2" のキーである値 COUNTRY\_HIERARCHY\_02 に設定されています。

```
&lsSZ_VAR013=34
```

```
&lsSZ_VAR011=COUNTRY_HIERARCHY_02
```



### 複数の異なるパラメータタイプの設定

これは、長い URL の作成方法を示すため、複数の異なる単一変数タイプを使用した異なるデータコネクションの設定方法を示す例です。

#### i 注記

山カッコで囲まれたアイテムは、文字列に含まれないコメントです。これらは、示されている単一変数のタイプを示すためコードスニペットで表示されています。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&lsS[1]Z_VAR013=34
&lsS[1]Z_VAR011=COUNTRY_HIERARCHY_02
&lsS[2]Z_CUR_MD=EUR
&lsS[3]DT_IH=20100107
&lsS[4]Z_VAR05=1
&lsS[5]ZCR_DT=20110803
```

## 5.5.2 Crystal Reports

### 5.5.2.1 IsM[NAME] - 複数の値変数

#### Crystal レポート

ターゲットが Crystal レポートの場合、[NAME] はパラメータ名です。また、各パラメータ値を角カッコで囲み、複数のエントリを区切るための区切り文字としてカンマ (,) を使用する必要があります。



### Crystal レポートのパラメータを設定する

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/openDocument.jsp
?iDocID=ASsonFDFQtVomHZZJJtJuSo
&sIDType=CUID
&lsMSelectState=[Alberta],[Washington]
```

次の例では、SelectState という名前のパラメータを含む Crystal レポートを開き、パラメータの値を Alberta および Washington に設定します。

## 5.5.2.2 lsR [NAME] - 範囲プロンプト

### Crystal レポート

ターゲットが Crystal レポートの場合、[NAME] はパラメータ名で、範囲を角かっこまたは丸かっこで囲む必要があります。範囲に含める値には角かっこ、含めない値には丸かっこを付けます。

## 5.5.2.3 lsS [NAME] - 単一プロンプト

### Crystal レポート

ターゲットが Crystal レポートの場合、[NAME] はパラメータ名です。



例

#### Crystal レポートのパラメータを設定する

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/openDocument.jsp
?iDocID=ASsonFDFQtVomHZZJJtJuSo
&sIDType=CUID
&lsMSelectState=California
```

次の例は、SelectState という名前のパラメータを含む Crystal レポートを開き、パラメータの値を California に設定します。

## 5.5.2.4 sOutputFormat

表 28:

構文	説明	値
sOutputFormat	ターゲットドキュメントを開く形式を指定します。	<ul style="list-style-type: none"><li>• H (HTML)</li><li>• P (PDF)</li><li>• E (Microsoft Excel (97-2003) - Crystal レポートのみ)</li><li>• W (リッチテキスト形式 (RTF) - Crystal レポートのみ)</li></ul>

### i 注記

このパラメータを指定しないと、デフォルトで HTML に設定されます。

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sOutputFormat=E
```

## 5.5.2.5 sPartContext

表 29:

構文	説明	値
sPartContext	レポートパーツのデータコンテキストを指定します。sReportPart と共に使用します。  <b>i 注記</b> Crystal レポートでのみサポートされます。	レポートパーツのデータコンテキストの名前。

### i 注記

sReportPart の値が指定されている場合にのみ必須です。

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sReportPart=Part1
&sPartContext=0-4-0
```

### i 注記

sReportPart および sPartContext パラメータは、DHML パーツビューア (sViewer=part) でのみサポートされています。

## 5.5.2.6 sRefresh

### Crystal レポート

sRefresh パラメータは html および part Crystal レポートビューアでのみサポートされています。actx および java ビューアではサポートされていません。

## 5.5.2.7 sReportMode

表 30:

構文	説明	値
sReportMode	<p>このリンクでターゲットの Crystal レポート全体を開くか、sReportPart で指定されたレポートパーツだけを開くかを示します。</p> <div><b>i 注記</b> Crystal レポートでのみサポートされます。</div>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Full</li><li>• Part</li></ul>

### i 注記

このパラメータを指定しないと、デフォルトで Full に設定されます。sReportPart の値が指定されている場合にのみ適用します。

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sReportPart=Part1
&sReportMode=Part
```

## 5.5.2.8 sReportName

表 31:

構文	説明	値
sReportName	ターゲットドキュメントに複数のレポートが含まれる場合に、開くレポートを指定します。	Web Intelligence ドキュメントのレポート名および A-OLAP Intelligence レポートのレポート名

### i 注記

このパラメータを指定しないと、デフォルトで最初のレポートに設定されます。

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sReportName=First+Report+Tab
```

## 5.5.2.9 sReportPart

表 32:

構文	説明	値
sReportPart	開くターゲット Crystal レポートのパーツを指定します。  <b>i 注記</b> Crystal レポートでのみサポートされます。	Crystal レポートパーツの名前。

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sReportPart=Part1
```

### **i 注記**

sReportPart および sPartContext パラメータは、DHML パーツビューア (sViewer=part) でのみサポートされています。

## 5.5.2.10 sViewer

表 33:

構文	説明	値
sViewer	選択されたレポートビューアを指定します。	<ul style="list-style-type: none"><li>html</li><li>part (Crystal レポートのみ)</li></ul>

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sViewer=html
```

## 5.5.3 Web Intelligence

### 5.5.3.1 OpenDocument URL における BEx プロンプト値の受け渡し

#### 技術名の使用

OpenDocument URL では、より判読しやすい名前エイリアスではなく、SAP BEx 変数の技術名を使用する必要があります。これらの技術名は、MDX テストエディタを使用して取得できます。技術名にはスペースが含まれず、大文字が使用されます (例: 0FISCPER)。OpenDoc URL 内で使用される値は、角かっこで囲む必要があります (例: [0FISCPER])。

構文は次のとおりです。

```
http://<domain name>:<port number>/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?sIDType=CUID
&iDocID=<23-digit case-sensitive document ID>
&sType=wid
&sRefresh=Y
&sOutputFormat=H
&lsS<technical name of BEx variable>=<[InfoObject technical name]>.[<Member /
user_input>]
```

正しく書式設定された lsS パラメータは、以下のように表示されます。

```
&lsSFiscal+Period++User+Input=[0FISCPER].[K42010001]
```

### 5.5.3.2 lsI [NAME] - インデックス

#### Web Intelligence ドキュメント

BEX、unx または unv を参照するドキュメントにリンクする場合、下の例のようにインデックスを含むプロンプトを使用します。

#### 例

```
http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?<doc identifier>
&ls[S/M/R][Prompt identifier]=[caption]
&lsI[Prompt identifier]=[key]
```

#### 注記

[Prompt identifier] および [key] 値では、URL エンコードが必要です。Webi を使用してリンクを取得するには、セルを選択して右クリックし、[リンク/ドキュメントリンクの追加](#)を選択します。



### 5.5.3.3 lsM[NAME] - 複数の値変数

#### Web Intelligence ドキュメント

文字 ? は、OpenDocument URL の Web Intelligence ドキュメントに対するプロンプト値として予約されています。URL でプロンプト値を lsM[NAME]=? に設定すると、そのプロンプトに対する**プロンプト**ダイアログボックスが表示されます。複数のエントリを区切るための区切り文字として、セミicolon (;) を使用する必要があります。

#### i 注記

下の例は、権限変数を no\_value パラメータあり、およびなしで使用方法を示しています。例では、各 OpenDocument 変数が分かりやすいようそれぞれの行で示されていますが、実際の URL は途切れのない 1 つの行です。

#### 例

1. 権限変数が選択されます (lsM<VAR>=no\_value および sRefresh=Y)。

この例では、以下のようなエラーメッセージが表示されます。

```
BW System XE8 returned state : USER_NOT_AUTHORIZED.  
Message = WARNING EYE (007): You do not have sufficient  
authorization"
```

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp  
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI  
&sIDType=CUID  
&sType=wid  
&sRefresh=Y  
&lsMVAR_AUTH_MULT=no_value
```

#### 例

2. 権限変数が選択されます (lsM<VAR>=? および sRefresh=Y)。

この例では、プロンプトダイアログボックスが表示され、許可される値を選択して表示内容を絞り込むことができます。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp  
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI  
&sIDType=CUID  
&sType=wid  
&sRefresh=Y  
&lsMVAR_AUTH_MULT=?
```

#### 例

3. 権限変数が選択されません (lsM<VAR>=no\_value および sRefresh=N)。

この例では、プロンプトダイアログボックスは表示されず、すべての利用可能情報を含むレポートが表示されます。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp  
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI  
&sIDType=CUID
```

```
&sType=wid
&sRefresh=N
&lsSVAR_PRODUCT_OPT_DEF=no_value
```

#### 例

4. 権限変数が選択されません (lsM<VAR>=? および sRefresh=N)。

この例では、プロンプトダイアログボックスが表示され、利用可能なすべての選択基準を選択して表示内容を絞り込むことができます。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sType=wid
&sRefresh=N
&lsSVAR_PRODUCT_OPT_DEF=?
```

### 5.5.3.4 lsS[NAME] - 単一プロンプト


#### Web Intelligence ドキュメント

文字 ? は、OpenDocument URL の Web Intelligence ドキュメントに対するプロンプト値として予約されています。URL でプロンプト値を lsS[NAME]=? に設定すると、そのプロンプトに対するプロンプトダイアログボックスが表示されます。

### 5.5.3.5 NAII

NAII 出力パラメータは、Y または N フラグを渡してプロンプト選択ページを表示できる Web Intelligence 固有のパラメータです。

表 34:

構文	説明	値
NAII	<p>プロンプト選択ページを表示するかどうかを示します。</p> <div> <b>注記</b> Web Intelligence ドキュメントだけでサポートされます。</div>	<ul style="list-style-type: none"><li>Y (URL で lsS、lsM、または lsR を含めて渡されたプロンプト値が適用され、プロンプトダイアログボックスに表示されません)</li></ul>

#### 注記

- NAII=Y は、URL 内で指定されていない値に対して [プロンプト] ダイアログボックスを実行します。デフォルト値で作成されたプロンプトは、[プロンプト] ダイアログボックスに表示されたままになります。

- すべてのプロンプト値が URL 内に指定されている場合、NAII=Y が指定されてもプロンプトウィンドウは表示されません。

#### 例

この例では、Web Intelligence ドキュメントに Year および Country の 2 つのプロンプトがあることを想定しています。NAII=Y は、[プロンプト] ダイアログボックスを表示して、ユーザが Country プロンプトの値を指定できるようにします。Year プロンプトは、すでに URL で lsS パラメータを使用して FY1999 の値に設定されているので、入力を求められません。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&lsSYear=FY1999
&NAII=Y
&sRefresh=Y
```

### 5.5.3.6 noDocument

表 35:

構文	説明	値
noDocument	<p>値 true は、既存のレポートテンプレートを使用して、デザインモードでレポートを開きます。</p> <div> <p><b>i 注記</b></p> <p>Web Intelligence ドキュメントだけでサポートされます。</p> </div>	論理値: True

#### **i** 注記

- noDocument=true は、Web Intelligence レポートを自動的にデザインモードにします。
- 既存のレポートテンプレートが使用されるため、適切なセキュリティを適用することでテンプレートの上書きを防ぐことができます。

#### 例

```
http://<server>:8080/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?
iDocID=6471&noDocument=true
```

## 5.5.3.7 sReportName

表 36:

構文	説明	値
sReportName	ターゲットドキュメントに複数のレポートが含まれる場合に、開くレポートを指定します。	Web Intelligence ドキュメントのレポート名および A-OLAP Intelligence レポートのレポート名

### i 注記

このパラメータを指定しないと、デフォルトで最初のレポートに設定されます。

### 例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
&sIDType=CUID
&sReportName=First+Report+Tab
```

## 5.5.4 eView と情報スペース

### 5.5.4.1 eView

#### eView ドキュメントのベース URL の取得

セントラル管理コンソール (CMC) で **フォルダ > オブジェクト一覧** を表示し、**タイプ** 列フィルタを設定して *Explorer* ビューセットドキュメントを表示し、適切な *Explorer* ビューセットドキュメントに移動します。ドキュメントを右クリックし、**プロパティ** を選択してから、23 文字の *CUID* 値をコピーします。

下の書式でリンクを作成してこのベース URL が機能するかどうかをテストしてから、Web ブラウザのアドレスバーにリンクを貼り付けます。

```
http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
?sIDType=CUID
&iDocID=Ac4WR2LgKMpPtqEc_npw_Nk
&mode=album
```

### i 注記

最終的な URL に改行を含めることはできません。サンプルコードスニペットでは、パラメータをより分かりやすく区切るために改行が使用されています。

## eView Open Document URL の構築

ビューをフィルタリングするには、ダイナミック URL パラメータを使用した情報スペースのカスタマイズに記載されている構文を使用してパラメータを追加する必要があります。

上記のベース URL の例を使用して Europe および EEMEA のみが表示される Region のフィルタを追加し、パラメータ fans (ファセットとファセット値の並べ替え済みリストのパラメータ) および区切り文字 \_]\_ を使用すると、以下のようになります。

```
http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opensdoc/openDocument.jsp
?sIDType=CUID
&iDocID=Ac4WR2LgKMPtqEc_npw_Nk
&fans=Region_:_Europe_]_EEMEA
```

## 特殊文字の URL エンコード

### i 注記

スペース、カンマまたはその他の特殊文字が含まれているため、リンクが機能しない可能性がある場合、URL をエンコードします。例

- &fans=Region\_:\_Europe\_]\_EEMEA をエンコードすると、以下のようになります。
- %26amp%3Bfans%3DRegion\_%3A\_Europe\_%5D\_EEMEA

# 重要免責事項および法的情報

## コードサンプル

この文書に含まれるソフトウェアコード及び / 又はコードライン / 文字列 (「コード」) はすべてサンプルとしてのみ提供されるものであり、本稼働システム環境で使用することが目的ではありません。「コード」は、特定のコードの構文及び表現規則を分かりやすく説明及び視覚化することのみを目的としています。SAP は、この文書に記載される「コード」の正確性及び完全性の保証を行いません。更に、SAP は、「コード」の使用により発生したエラー又は損害が SAP の故意又は重大な過失が原因で発生させたものでない限り、そのエラー又は損害に対して一切責任を負いません。

## アクセシビリティ

この SAP 文書に含まれる情報は、公開日現在のアクセシビリティ基準に関する SAP の最新の見解を表明するものであり、ソフトウェア製品のアクセシビリティ機能の確実な提供方法に関する拘束力のあるガイドラインとして意図されるものではありません。SAP は、この文書に関する一切の責任を明確に放棄するものです。ただし、この免責事項は、SAP の意図的な違法行為または重大な過失による場合は、適用されません。さらに、この文書により SAP の直接的または間接的な契約上の義務が発生することは一切ありません。

## ジェンダーニュートラルな表現

SAP 文書では、可能な限りジェンダーニュートラルな表現を使用しています。文脈により、文書の読者は「あなた」と直接的な呼ばれ方をされたり、ジェンダーニュートラルな名詞 (例: 「販売員」又は「勤務日数」) で表現されます。ただし、男女両方を指すとき、三人称単数形の使用が避けられない又はジェンダーニュートラルな名詞が存在しない場合、SAP はその名詞又は代名詞の男性形を使用する権利を有します。これは、文書を分かりやすくするためです。

## インターネットハイパーリンク

SAP 文書にはインターネットへのハイパーリンクが含まれる場合があります。これらのハイパーリンクは、関連情報を見いだすヒントを提供することが目的です。SAP は、この関連情報の可用性や正確性又はこの情報が特定の目的に役立つことの保証を行いません。SAP は、関連情報の使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。すべてのリンクは、透明性を目的に分類されています (<http://help.sap.com/disclaimer> を参照)。



[www.sap.com/contactsap](http://www.sap.com/contactsap)

© 2015 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE (又は SAP の関連会社) の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する情報および表示の詳細については、<http://www.sap.com/corporate-en/legal/copyright/index.epx> をご覧ください。